

# いずみさの昔と今 第351回

## 「長滝と蟻通神社」

蟻通神社は長滝全体の氏神です。創建は第9代開化天皇の頃とされ、祭神として大己貴命（おこなむちのみこと）が祀られています。当社は古来より蟻通明神の名で知られ、たびたび戦火に見舞われながらもその度に再興し、現在でも長滝の中心的神社として厚く信仰されています。

蟻通神社の創建から奈良時代頃までの足跡は明らかではありません。平安時代になると紀貫之の「貫之集」や清少納言「枕草子」の「蟻通明神説話」の故事により蟻通明神として広く知られるようになりました。しかし、蟻通神社は当社のほかに和歌山県内に二社存在しており、同様の謂れを伝承しています。そのため明確に当社のことを指す記録は平安時代中期～末期頃に編纂されたと考えられる「和泉国神名帳」の「從五位上有通社」が初出となります。次に「日根野村荒野開発絵図」（正和5（1316）年）では「穴通社」として示され、この頃には禪興寺と共に長滝の中心的存在であったと推測されます。室町時代になると世阿弥により謡曲「蟻通」が制作され更に全国的に有名になったようです。室町時代後期に入ると長滝は根来寺の支配下に入り、蟻通神社も同寺の影響下に入ったと考えられています。その後、天正5（1577）

年の織田信長の雑賀攻め、同13年の羽柴秀吉の根来寺攻めにより焼失したため、慶長8（1603）年に豊臣秀頼により再興されましたが、同20年の大坂夏の陣に伴う樫井合戦で再び焼失しています。江戸時代に入ると長滝は岸和田藩領に組み込まれ、元和5（1619）年に岸和田藩主となった松平康重により蟻通神社の再興が行われ、寛永8（1631）年に舞台が建立されました。再興活動は寛永17年に藩主となった岡部宣勝の手により更に進み、明暦4（1658）年に玉垣の再建と神宮寺・宗福院の建立が行われ、万治3（1660）年に宣勝の子行隆により鳥居が寄進されています。その後も江戸時代を通して岸和田藩の信奉厚く、たびたび支援を受けたようです。

当社は紀貫之の伝承から文芸の神として尊敬を集めた他に、紀州街道に面した立地から旅の神、国難を息子が老父の知恵を借りて救った「蟻通明神説話」から親孝行・敬老・知恵の神として中世では信仰を集めていたようです。しかし、江戸時代前期では岸和田藩の命により、後期では長滝村全体の共同祈願として雨乞いが行われ、主体が前・後期で変わっているものの、江戸時代を通して祈雨の神として崇められていたことがわかりま

す。このことから遅くとも江戸時代には、旅や文芸の神から祈雨の神に変容していたようです。蟻通神社の雨乞いは昭和9（1928）年頃まで実際に行われており、近代になっても祈雨の神として信仰されていたことがわかります。

そんな蟻通神社の鎮座地は昭和17（1942）年に明野陸軍飛行学校佐野分教所の建設に伴い、元の長滝村字蟻通の紀州街道に面した位置から現在地へ移転しています。社殿配置は移転前を踏襲しているといひ、往時の面影を現代まで伝えていきます。

蟻通神社は時代に翻弄され、信仰の形態が変化しながらも、現在まで長滝の中心としてそこに住む人々を見守ってきたことがわかります。

レイクアルスタープラザ・  
カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）  
開館時間  
午前9時～午後5時  
（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料



▲蟻通神社舞台  
（昭和17年頃撮影）

## 泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

### ⑨旧泉佐野市役所



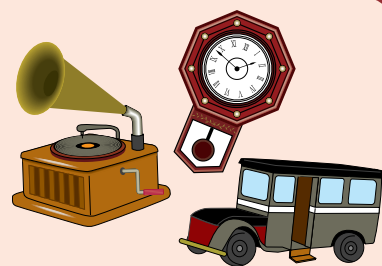
▲昭和29年ごろの旧泉佐野市役所の写真。正面入口は第二小学校へ向かう道に面して建っていた。入口の上には「泉佐野市役所」と記されていた。



▲昭和36年、旧第二小学校上空あたりからの空撮写真。中央の車寄せのある2階建ての建物が当時の泉佐野市役所。



▲現在の同じ場所の写真。市役所の建物の撤去後、一時期は自転車の駐輪場などとして使用されていた。現在は泉佐野センタービルが建っている。



泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！